

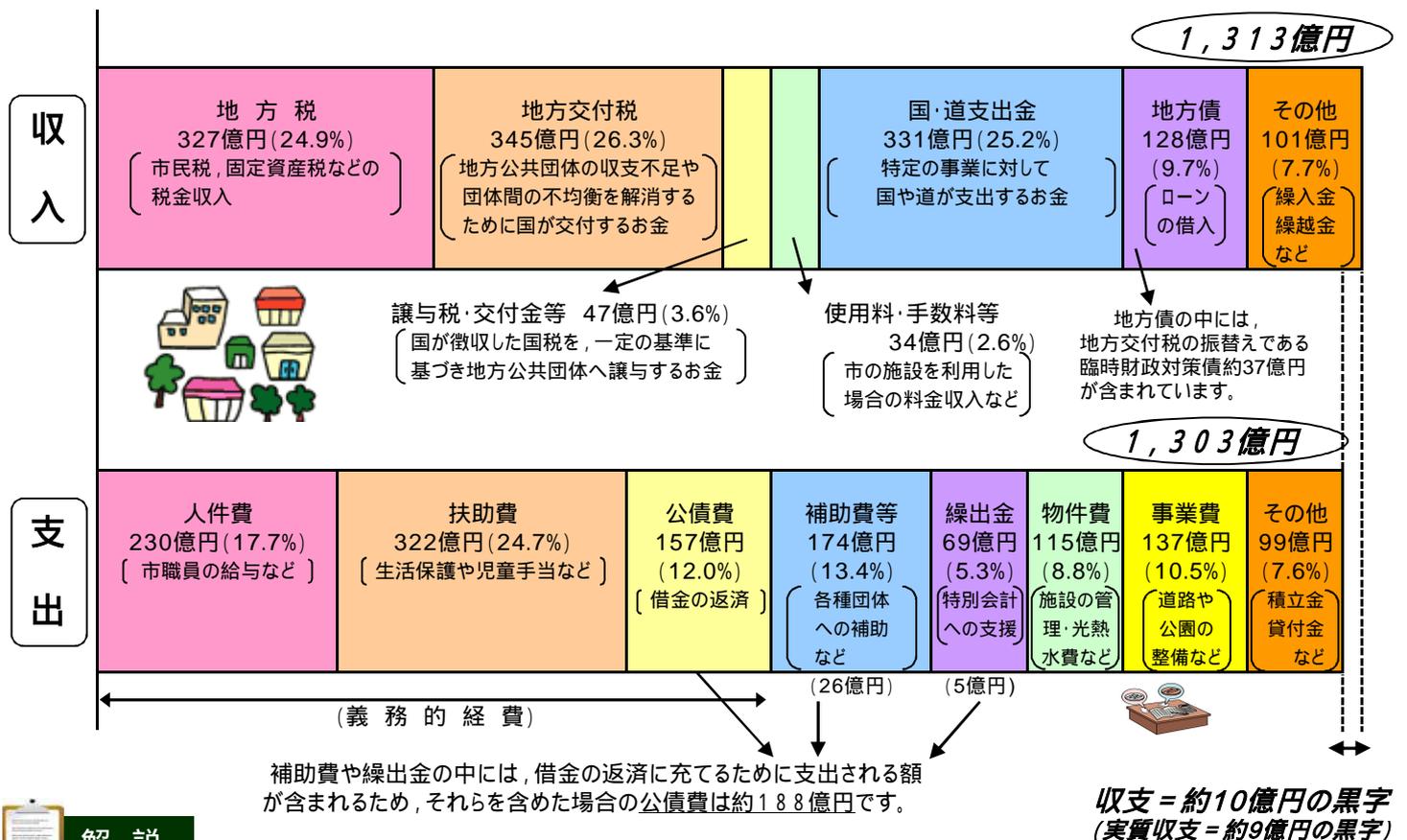
函館市の台所事情

～平成21年度決算より～

「財政のしくみや用語は複雑でわかりにくい」という言葉をよく耳にします。そこで、財政の現状をもっと身近に感じてもらうために、市の財政状況を、できるだけ「わかりやすく」、「簡単に」を心掛け、作成しました。

普通会計の収入と支出は、どうなっているの？

普通会計とは～自治体ごとに一般会計や特別会計などの範囲が異なるため、それを統一的な基準で整理し、比較・分析などができるようにした統計上の会計です。



解説

函館市の収支は、約10億円の黒字となっています。

しかし、翌年に使い途が決まっているお金(翌年度に繰り越すべき財源・約1億円)を差し引いた**実質的な収支は、約9億円の黒字**となりますが、さらに、**財源対策として退職手当債(団塊の世代の退職金が必要となるため10年間の時限措置として特例的に認められている地方債)20億円を差し引くと、約11億円の赤字**となっています。

支出の面では、前年度と比べ、行財政改革の実施により人件費を約7億円削減したものの、景気の低迷などにより扶助費が約17億円増えたため、必ず支払わなければならない経費(義務的経費)が約10億円増えており、財政の硬直化が進んでいます。

一方、収入の面では、地方交付税、国・道支出金、地方債のような、他に依存する収入(依存財源)の割合が約60%を占めており、国や借金に頼らなければ支出を賄えない、苦しい台所事情となっています。

普通会計を家計簿に例えると、どう感じるの？

函館市の平成21年度普通会計決算額を年間収入400万円の家計に例えてみました。



収入

家計に例えた場合	決算項目	年間 (円)	1か月 (円)	構成比 (%)	類似団体 (%)
(自主財源)		(138万)	(11万4,000)	(34.5)	(51.8)
給料	市税	99万6,000	8万2,000	24.9	41.0
パート収入	使用料, 手数料など	36万4,000	3万	9.1	8.5
貯金の取り崩し	繰入金	2万	2,000	0.5	2.3
(依存財源)		(262万)	(21万6,000)	(65.5)	(48.2)
親からの仕送り	交付税, 国・道支出金など	220万	18万1,000	55.0	35.9
前年(前月)の残金	繰越金	3万2,000	3,000	0.8	3.1
ローンの借入	地方債	38万8,000	3万2,000	9.7	9.2
合計		400万	33万	100	100

支出

家計に例えた場合	決算項目	年間 (円)	1か月 (円)	構成比 (%)	類似団体 (%)
(義務的経費)		(215万8,000)	(17万8,000)	(54.4)	(48.6)
食費	人件費	70万2,000	5万8,000	17.7	17.9
医療費, 保育料	扶助費	98万	8万1,000	24.7	18.9
ローンの返済	公債費	47万6,000	3万9,000	12.0	11.8
(投資的経費)		(41万6,000)	(3万5,000)	(10.5)	(13.5)
家の増改築・家電購入	事業費	41万6,000	3万5,000	10.5	13.5
(その他の経費)		(139万1,000)	(11万4,000)	(35.1)	(37.9)
光熱水費, 生活雑費	物件費	34万9,000	2万9,000	8.8	11.4
車や家具の修理代	維持補修費	7万6,000	6,000	1.9	1.1
サークル活動費, ご祝儀など	補助費等	53万1,000	4万4,000	13.4	11.8
子供への仕送り	繰出金	21万	1万7,000	5.3	8.8
友人などに貸したお金	投資・出資・貸付金	21万	1万7,000	5.3	3.5
預金	積立金	1万5,000	1,000	0.4	1.3
合計		396万5,000	32万7,000	100	100

貯金・借金

家計に例えた場合	決算項目	H22.3.31現在 (円)
貯金残高	基金残高	42万5,000
ローン残高	地方債残高	473万1,000

財政用語

類似団体

人口や産業構造が類似している団体。函館市の類似団体は中核市41市。(旭川市, 青森市など)

解説

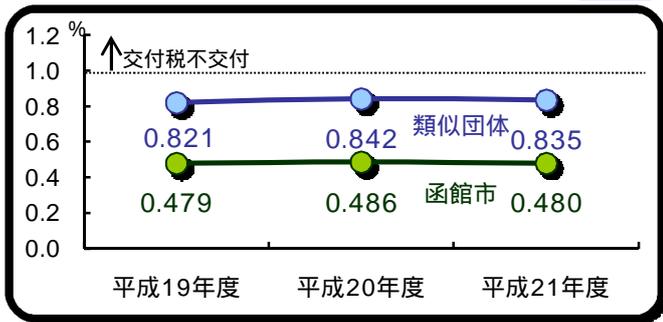
収入の面では、給料(市税)やパート収入(使用料等)などのように自分達で稼いで得たお金(自主財源)の割合が約35%しかなく、親からの仕送り(交付税等)やローンの借入(地方債)などのようなお金(依存財源)に大きく頼らなければならない状況です。類似団体と比較しても、自主財源の割合は約20%も低いことから、依存度が高く苦しい状況であることがわかります。

支出の面では、食費や医療費など決まって出ていく経費(義務的経費)が約55%を占めています。これは、エンゲル係数のようなもので、この割合が高いほど、自由に使えるお金が少なく生活水準が低いことを示しています。類似団体と比較しても、義務的経費の割合(特に扶助費)が高いため、家の増改築や家電購入などの大きな買い物(投資的経費)に回せるお金が少なく、抑制せざるを得ない状況です。さらに、給料やパート収入だけでは、食費や医療費などをやりくり出来ない、苦しい家計状況です。

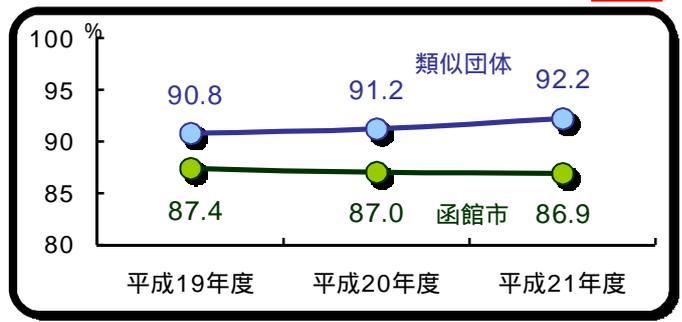
また、貯金残高は年間収入の約10分の1であり、一方、ローン残高は年間収入の約1.2倍、さらに、給料と比較すると約5倍の借金を抱えている状況です。

普通会計の健康状態は、どうなの？

【 財政力指数 】



【 経常収支比率 】



解説

地方公共団体の財政力を示す指標で、標準的な行政サービスを提供するために必要な経費(基準財政需要額)に対する、自治体が標準的に収入し得る財源(基準財政収入額)の割合です。

簡単に言うと、行政に必要なお金を、自前の収入でどれくらい賄えているかを示すもので、この指数が1に近いほど、または、1を超えるほど、財政力が強い(財源に余裕がある)団体となります。

函館市は、必要なお金の半分も賄えていない状況であり、また、類似団体と比べても、大幅に低いことから、財政力が乏しい団体であると言えます。

解説

財政構造の弾力性を示す指標の1つで、市税、交付税、交付金など毎年経常的に収入される経費に対して、人件費、扶助費、公債費など毎年経常的に支出される経費が占める割合です。

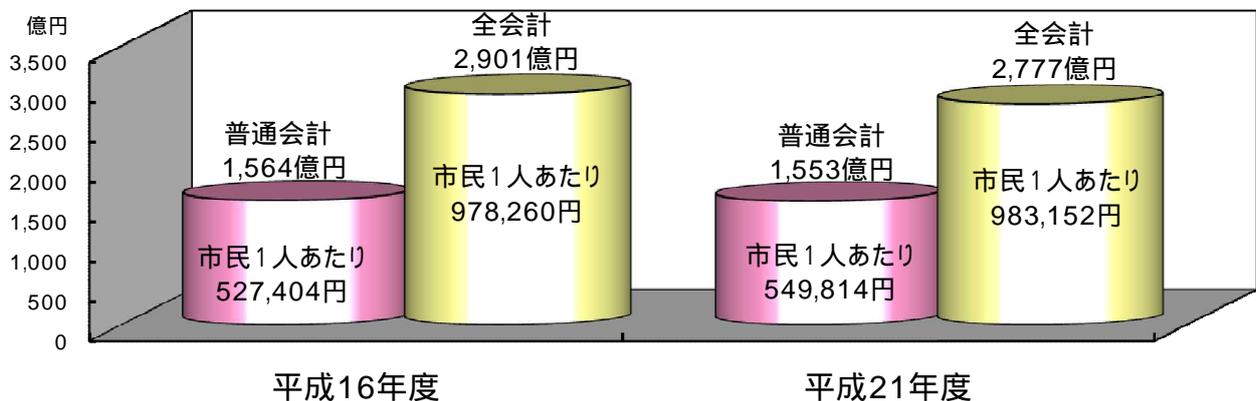
1ヶ月の家計に例えると、毎月の給料に占める、食費など毎月決まって支払わなければならない経費の割合です。この割合が高くなるほど、家計のやりくり(財政運営)が苦しくなります。

函館市は、これまでの間、行財政改革を行い、人件費や経常経費の削減などに努めてきたことから、近年は低下傾向にあり、類似団体平均を下回っている状況です。

函館市全体の借金は、どれくらいあるの？

函館市全体(全会計)とは ~ 函館市の一般会計、特別会計(国保など)、企業会計(水道、病院など)の全ての会計のことをいいます。

【 借金 (地方債残高) 】



解説

平成21年度の借金を見ますと、普通会計では約1,553億円、市民1人あたりは約55万円となっており、全会計では2,777億円、市民1人あたりは約98万円という借金残高になっています。

普通会計、全会計ともに5年前と比べると借金は減少していますが、市民1人あたりの借金は人口減により増えています。

平成21年度の借金の動きは、新たに約181億円を借り入れて、約224億円を返済しました。その結果、平成20年度末残高から43億円減少して、平成21年度末残高は約2,777億円となります。

市民1人あたりの換算は、各年度末の人口で除しています。
平成16年度 296,547人 平成21年度 282,459人

知っておきたい

なぜ借金をするの？ 市の借金である市債(ローンの借入)は、道路や公共施設などを整備する場合に発行します。多額の経費を一度(単年度)に負担した場合、福祉や教育など毎年必要な市民サービスの提供に支障をきたすこととなります。市民が長年にわたり利用するための借入金であることから、現在の市民と将来の市民との世代間で公平に経費を負担する仕組みとなっています。



函館市全体の健康状態は、どうなの？

【健全化判断比率】

(単位: %)

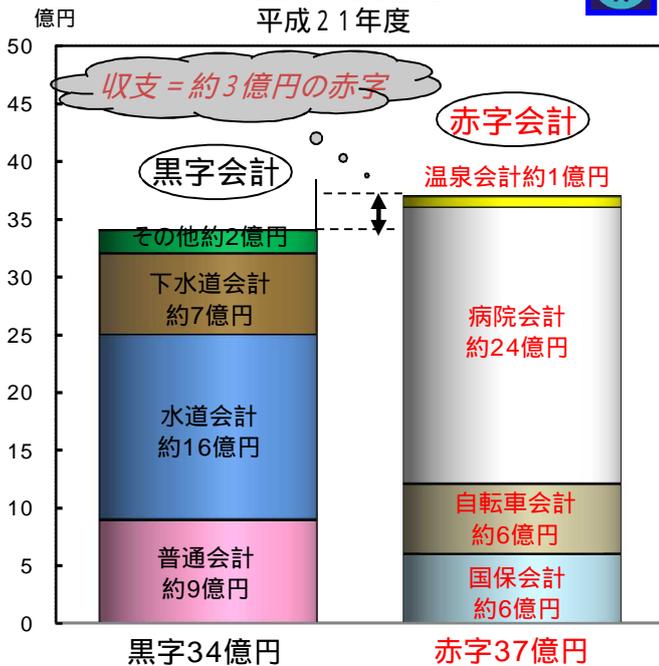
指標名	説明	(平成20年度) 平成21年度	早期健全化 基準	財政再生 基準
実質赤字比率	普通会計の実質赤字の標準財政規模に対する比率 (普通会計の赤字の深刻度を示す)	(-) / -	11.25 ~ 15 (函館市は11.25)	20
連結実質赤字比率	全会計の実質赤字の標準財政規模に対する比率 (全ての会計の赤字・黒字を合算し、赤字の深刻度を示す)	(-) / 0.41	16.25 ~ 20 (函館市は16.25)	30
実質公債費比率	実質的な公債費(ローンの返済)の標準財政規模に対する比率 (公債費(ローンの返済)の程度・規模を示す)	(10.0) / 9.0	25	35
将来負担比率	全会計の実質的な負債の標準財政規模に対する比率 (企業会計, 出資法人等も含めた将来負担(負債)の程度を示す)	(128.7) / 130.1	350	

実質赤字比率および連結実質赤字比率は、黒字の場合「-」となります。

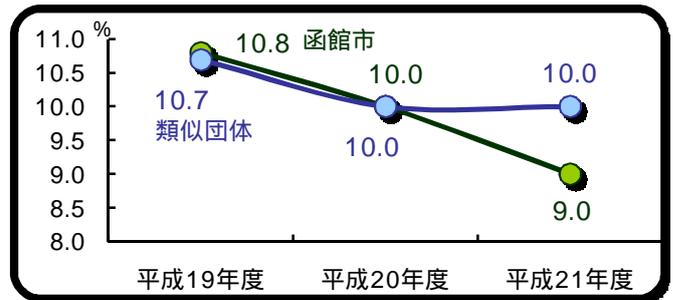
【連結実質赤字】



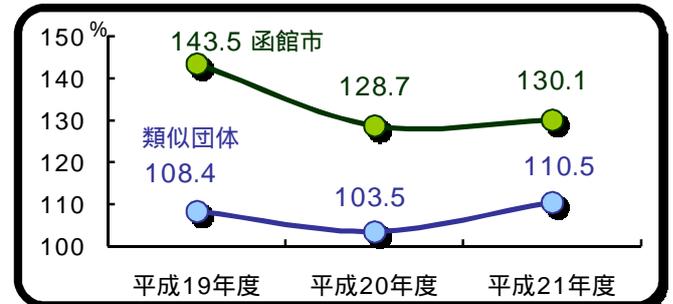
平成21年度



【実質公債費比率】



【将来負担比率】



解説

地方公共団体の財政悪化を未然に防止することを目的として定められた比率で、4つの指標で構成されています。

この指標の特徴は、普通会計(自治体本体)だけではなく、公営企業会計なども含めた自治体全体を含めて財政状況をチェックする「財政健全化計画の策定など自主的な改善努力により財政健全化を図る「早期健全化基準」と、財政再生計画など国の強い関与の下で財政再生を目指す「財政再生基準」が設けられていることなどです。

平成21年度の4指標の状況ですが、「早期健全化基準」を超えている指標はありません。

実質赤字(比率)

普通会計の黒字か赤字かを判断する指標で、**約9億円の黒字**でした。

連結実質赤字(比率)

函館市の全会計の黒字と赤字を合算し、黒字か赤字か判断する指標で、平成20年度は約1億円の黒字でしたが、平成21年度は**約3億円の赤字**となりました。

実質公債費比率

家計に例えると家や車のローンの年の返済額が年収の25%以上となった場合、借金漬けになる可能性が高い状態を示しており、函館市は**9.0%で基準以内**となっています。

将来負担比率

家計に例えると家や車のローンの残高など、返済総額が年収の3.5倍以上になった場合、今後ローン返済などに追われ家計が成り立たなくなる可能性が高い状態を示しており、函館市は**130.1%で基準以内**となっています。

平成21年度の4指標は、「早期健全化基準」を超えていないものの、連結実質収支が赤字となっており、決して好ましい状況ではありません。今後も、財政状況が悪化しないよう危機感を持って、財政運営を行ってまいります。

財政用語

標準財政規模

地方自治体の収入のうち、市税や地方交付税など通常自治体として収入が見込まれる、使途が特定されない収入金の額(規模)。



給料に例えると、月によって変動する残業手当や、特定目的のために支給される通勤手当や住居手当などを除いた、基本給などに相当するものです。



お問合せ先
財務部財政課
21-3530